

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3610123667		
法人名	医療法人 道志社 リハビリテーション大神子病院		
事業所名	グループホーム大神子		
所在地	徳島県徳島市大原町大神子16番地2		
自己評価作成日	令和4年9月30日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会		
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 県立総合福祉センター3階		
訪問調査日	令和4年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所は自然あふれる日の峰大神子広域公園の近くに位置し、四季を肌で感じることができます。明るい雰囲気の中で隣にある保育所の園児との交流や季節ごとの行事作りを入居者と一緒に行い、楽しく過ごしています。リハビリ体操などのレクリエーションを通し体力維持に努め、入居者と一緒におやつ作りや園芸など、その人らしく生活を送って頂くことができるよう生活リハビリに努め、笑顔あふれる毎日を過ごしています。母体法人の医療機関と連携を図り、防災訓練での防災対策や個々の体調管理に留意、緊急時にも対応できる体制が整っており、入居者、家族、職員の安心と安全に繋がっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、自然美豊かな山間部に位置している。近隣には、同一法人が運営する医療機関や他施設があり、利用者の急変時等には、24時間対応可能な体制を整備している。事業所独自の理念として“これからもずっと自分らしく暮らしていけるためのお手伝い”を掲げ、利用者一人ひとりのその人らしさを大切に支援に取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症の流行下においても、2か月に1回、写真入りのホームだよりを利用者家族に送付したり、電話やリモート面会、屋外面会等を行ったりするなど、利用者や家族等の安心に繋げている。外出についても、安全面に配慮しつつ、日常的な散歩や家庭菜園、花見、遠足を行うなど、閉塞感がないよう取り組んでいる。また、介護ロボットを導入し、利用者の心身状況にあわせて適切に活用するなど、本人本位の支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、各ユニットで理念、基本方針を全員で唱和し、全職員が実践につなげるよう取り組んでおり、毎月の職員勉強会で基本方針や理念について見直しや話し合いを行っている	事業所では、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念を掲げている。毎朝、理念を唱和するとともに、事業所内や名札裏に理念を掲示・記載し、職員間での共有化を図っている。毎年、理念について振り返り、日ごろの支援の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩に出掛けるなどし、地域住民に積極的に挨拶をし交流を深めている(コロナ禍の為、会釈や手を振って挨拶をしている)	事業所では、散歩の際に、近隣住民と挨拶を交わすなど、日常的に地域と交流している。菜園で採れた野菜を、近隣住民に差し入れることもある。また、年1回、地域の作品展に利用者の作品を出品するなど、地域と繋がりがながら暮らすことができるよう取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題のテーマを各ユニット職員が決め認知症に対する知識を深め地域の方に発表している(現在は書面と電話での報告)。また利用者の作品を新聞広告に載せたり年1回は作品展に出品したりと地域の方々へ働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、家族、地域住民、地域包括支援センター、有識者に意見を聴き、また家族様アンケート、勉強会の報告を行うなどし、質の向上に努めている(現在は書面、電話での報告)	2か月に1回、運営推進会議を開催している。感染症(コロナ等)の流行に伴い、書面会議を行っている。電話等により、各委員に事業所の状況を報告し、意見を得て、サービスの質の向上に活かしている。管理者は、さらなる質の向上に向けて、多方面から出席を得ることを検討している。	今後は、地域の関係者など、多方面からの出席を得ることで、運営推進会議が、さらなるサービスの質の向上に向けて取り組む機会となることに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告を月初めに行い、2ヶ月に1回運営推進会議の議事録、ホーム便りなどを送付し協力関係が継続出来るよう体制作りを図っている	職員は、毎月、市の担当窓口を訪問している。訪問時には、事業所や利用者等の現況報告を行うとともに、情報や助言等を得ている。また、地域包括支援センターとも連携を図り、入所相談や介護相談等を受けるなど、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全安心な生活が送れるよう利用者個々の精神面や行動を把握するとともに希望に応じ玄関のロック式施錠を解除し付き添いのもと外へ出られるようにしており昼間に開錠時間を設け閉塞感のないように努めている	事業所では、年1回、身体拘束に関する研修会を開催し、職員間での周知・徹底を図っている。毎月、法人が開催する身体拘束委員会に参加するとともに、マニュアルも整備している。全職員が、身体拘束の内容や弊害等について理解し、利用者の自由な暮らしを支援するよう努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員勉強会で、事例をあげて話し合い、勉強会を行い、虐待に対する認識を深め、虐待防止の徹底を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者はいないが、成年後見制度について資料を配布するなどし、また勉強会を行い、全職員が情報を共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないように十分な説明のもと締結し、解約についても理解が得られるよう説明する時間を十分に設けている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置年1回アンケート調査を行い運営に対するご意見を聴き年3回家族会を開催していたがコロナ禍の為家族会は中止しており電話でのご意見ご相談や書面でのご意見ご相談を受け付けている	事業所では、日ごろの支援のなかで、利用者の意見等を聞き取っている。事業所内に、意見箱も設置している。家族等には、定期的に、ホームだよりや満足度アンケートを実施し、意見や要望等を引き出すよう努めている。出された意見等について、職員間で検討し、運営面に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員勉強会で広く意見を聴き、個別にも相談に応じ、意見提案を運営に活かせるよう取り組んでいる	管理者は、日ごろの支援のなかで、職員の意見や提案等を聞き取っている。職員会議や朝礼など、意見等を出すことができる機会も設けている。また、年2回、代表者との個別面談を行うなど、直接意見を伝える機会もある。出された意見等について検討し、運営面に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、実績を把握、考慮し研修会への参加が出来るような職場環境を整えている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月1回運営推進会議の議題のテーマについて職員が考え勉強会を先に行い認知症の知識や対応について職員間で学ぶ機会を作りまた法人内外の研修に参加し(現在はZOOMの動画での参加)参加後も研修内容の報告を伝達している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の委員を努めることで広く意見交流の場へ参加し他グループホームとお互いの運営推進会議に出席し意見交換を行っている(現在は書面会議、ZOOM動画での参加)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事、不安な事が伝えやすい環境を作り、時間をかけお話を聴き、安心して頂けるよう努めている。また好きなこと、できることに着目して一緒に行い、関係作りに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議への参加を呼びかけ、電話でのご相談やご意見、要望に沿えるよう努め、不安なことは時間をかけ、ゆっくりとお話を聴き、安心して頂けるよう配慮している		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としていることを見極め、お話を聴き、本人に合ったサービスが提供できるように努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を大切に、生きてこられた人生を尊重し、出来る事探しを行い、感謝の気持ちを伝え関係性を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には状況の報告を行い毎月はじめには生活状況を書面に書き一緒に行事参加時の笑顔の写真を同封している。遠方の家族に対しては電話連絡を行っている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為窓越し面会や外のベンチで距離を置いてお話できる環境作り、外部からの電話また家族や友人への電話なども取次も行い静かな環境のもとで電話できるよう配慮している。また、お手紙のやりとりや塗り絵等の作品を郵送で送っている	事業所では、利用者の馴染みの関係継続に向けて支援している。感染症等の流行下においては、窓越し面会や屋外面会など、家族等と顔を合わせることができるよう工夫している。また、馴染みの場所へドライブに出かけるなど、関係が途切れることのないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、談笑したり様々な事が一緒に出来る雰囲気を作るよう席や椅子、ソファの配置等環境整備に気を配っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を余儀なくされた利用者にも、引き続きお見舞いに伺い、好みやケアについて詳しく情報提供を行っている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力も得て、生活歴、趣味、既往歴の情報収集を行い、本人の「出来る事」「その人らしさ」を大切にプラン作成し、ケアを提供している	職員は、日ごろの支援のなかで、利用者との会話や表情、仕草などから、希望や意向等の把握に努めている。意思の表出が困難な場合は、本人の家族や知人等から情報を得つつ、職員間で共有化を図り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や独自のアセスメント表を活用し、本人や家族から生活歴等を聴き、全職員で情報を共有を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタルチェックを行い、心身の状態の観察を行う。表情や顔色、行動観察を行い、絶え間ないケアが出来るよう申し送りを行い、統一したケアを提供している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを行い、担当者、計画作成担当者、本人、家族も交えカンファレンスを行い、本人、家族の意向に沿った計画の見直しを行っている	事業所では、利用者や家族等の意向を踏まえた介護計画を作成している。計画作成時には、本人の主治医や関係機関等の意見も得ている。3か月に1回、モニタリングを実施するとともに、随時の見直しも行き、現状に即した計画となるよう取り組んでいる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況、心身の変化など日々の変化も見逃さず記録を行い、それに沿って申し送りを行い、情報共有を図っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じ買い物外出や外食外泊等の自宅までのお迎えを行うなど利用者の状態に合った対応をしていたが、現在はコロナ禍の為職員が要望を聞き、買い物や受診の付き添いなどを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得、安心、安全な生活が出来るよう支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体法人の医療機関から月1回の定期往診、それ以外にも体調の変化に応じての受診への付き添い、また必要に応じた他科受診も家族や職員が付き添っている	事業所では、利用者や家族等が希望するかかりつけ医の受診を支援している。専門医を受診する際は、家族等の協力を得ている。緊急時には、協力医療機関と連携を図り、24時間対応可能な体制を整備している。随時、地域の医療機関と連携し、必要に応じて往診も行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	母体法人の医療機関から看護師が来て、健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員からの相談にも応じている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後もお見舞いに行き、身体状況の確認、医師や看護師からの情報収集を行い、家族への情報提供も行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し、医療機関と連携を図っている。また看取りが必要となった場合の内容説明を行い同意を得ている	事業所では、入居時の段階で、重度化や終末期の指針について、利用者や家族等に説明し、同意を得ている。心身状況の変化に応じて、本人や家族等の意向を確認しつつ、関係機関と方針を共有し、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会や全体会議で管理者に急変時対応の指導や助言を行ってもらいながら初期対応を身につけられるよう日頃からイメージトレーニングを行い、実践力の向上に努めている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月利用者も参加し避難訓練を行い地震火事水害の際の行動を確認し敷地内の他事業所とも合同訓練を行うよう強化している。また運営推進会議で地域の方に防災訓練の報告も協力体制での連携を図っている。	年2回、地域の消防署等の協力を得て、同一法人が運営する他サービス事業所と合同での避難訓練を実施している。毎月、事業所独自の避難訓練や炊き出し訓練も実施している。備蓄品等も整備し、災害時に備えているが、管理者は、地域との協力体制を築くことを検討している。	今後も、引き続き、地域協力の働きかけを行うことが望まれる。事業所の立地から、地域特性等を考慮しつつ、地域住民や地域の関係機関等とも協力体制を築き、災害時に備えることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの気持ち、行動を大切に尊厳を尊重した言葉かけをするよう常に話し合っている	職員は、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援に努めている。日ごろの支援のなかで、自尊心等を傷つけることのないよう配慮している。事業所では、年1回、プライバシー保護や個人情報等に関する研修会を開催し、サービスの質の向上に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いや意向を伝えやすい雰囲気を作り、意思決定が出来るよう、話しかけを行っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりに一緒に出来ることを探し、本人のペースに合った提供を行い、達成感を味わって頂けるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、ご自分で服を選んでもらい、男性の利用者はひげ剃りや整容ができる環境を作る等、意欲の向上に努めている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お盆拭き、テーブル拭き、野菜、果物の皮剥きなどお手伝いをして頂いている。また、利用者と一緒に作るものを考え、おやつ作りも一緒に行い、1人ひとりの力を活かして役割りを担ってもらっている	食事は、法人の管理栄養士が、利用者の好みや旬の食材を採り入れた立てた献立にもとづいて提供している。菜園で採れた野菜を使ったり、利用者と一緒におやつを作ったりして、食事が楽しみなものとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事、水分量を記録し、全体を通して不足している場合は、主治医や管理栄養士と相談し体調に合わせて本人の好きな食べ物または栄養補助飲料の提供を行い、職員間での情報共有を図っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	母体法人の口腔ケア研修で知識を深め、利用者に口腔ケアの必要性を説明し、毎食後、歯磨き誘導や介助を行い、1人ひとりの口腔衛生の管理を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉寿 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握し、本人にあったパットや下着の選択を行い、排泄表を用いて声かけ、誘導を行っている	事業所では、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握している。把握した情報に基づき、できる限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間は“眠りスキャン”を導入し、眠りの深さを測定することで、適切な排泄のタイミングを図るようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表を毎日確認し、水分補給や体操での活動を行い、個々にあった下剤の調節などを行い、便秘予防に努めている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	体調に考慮し拒否があった場合は時間を置いて声かけしそれでも拒否があった場合は翌日に変更するなど本人の意向にそっている。季節によって菖蒲湯、ゆず湯や好きな入浴剤やシャンプー等を選んでもらっている	事業所では、週3～4回は入浴することができるよう支援している。利用者の希望に応じて、同性介助を行うなど、羞恥心等に配慮している。また、利用者の好みのシャンプーや入浴剤を活用するなど、入浴を楽しむことができるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々、穏やかに過ごして頂けるようコミュニケーションを図り、体調の変化を見逃さず、安眠できるよう環境を整えている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人ひとりの症状、内服薬の用法、用量についても把握し、準備時、氏名、日付の声出し確認を行い、ダブルチェックを行っている。症状の変化が見られた場合は速やかに看護師、医師、薬剤師の指示を仰いでいる		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人の生活歴の中から「出来る事」を見つけ、お手伝いや趣味の塗り絵、書き写し、散歩などにお誘いし、花を観たり、お世話をしたりと楽しみを持って頂いている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じ買い物外出や季節の行事にお誘いし出掛け外気浴や誕生日には本人の行きたい場所を聴き家族と一緒に遠出や外食、ドライブに毎年行っていたが、コロナ禍の為、近場の大神子海岸や日の峰広域公園などで季節の行事を行っている。また園芸に出て気分転換を図っている	事業所では、日ごろから、近隣の散歩に出かけるなど、日常的に外出支援を行っている。感染症の流行状況を鑑みつつ、安全面に配慮しながら、花見や遠足に出かけるなど、利用者が生き生きと暮らすことができるよう、外出支援に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			嘉壽 実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の了解を得、預かったお金は金庫にて保管し、買い物や外出した際にお支払いで頂いている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話連絡の支援を行い、家族からの手紙などは一緒に読み、手紙の返事や本人がしている作品物などを送ることができるよう一緒に行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を利用者と生け花をし飾り、食堂など共同空間にも飾っている。また季節の飾り付けも一緒に行い、季節感を出した明るい雰囲気を作っている。温度調節にも配慮し適切な温度管理を行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している	共用空間は日当たりがよく、明るい。壁面には、利用者の作品などを飾り、季節感がある。大きなソファやマッサージ機を設置し、利用者一人ひとりが、思いおmoiの場所で、居心地よく過ごすことができるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場、食堂にはソファやマッサージ機を設置し、自由に行き来でき、気の合った利用者と談笑したり、ビデオを楽しむ事ができる雰囲気となっている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ家具や椅子、小物、写真などを用意して頂き、本人の時間を過ごせるように工夫している。本人が気持ちよく過ごせるよう清掃も毎日行っている	居室には、利用者の馴染みの家具や写真、仏壇などを持ち込んでもらい、居心地よく過ごすことができるようにしている。安全面にも配慮し、安心して過ごすことができる空間づくりを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂の入り口にのれんをかけ、トイレも大きく表示し、居室のドアにも本人がした作品を飾り利用者の記憶に合わせた工夫や場所の混乱がないよう安全、安心した生活が送れるよう支援している		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時には、各ユニットで理念、基本方針を全員で唱和し、全職員が実践につなげるよう取り組んでおり、毎月の職員勉強会で基本方針や理念について見直しや話し合いを行っている			
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩に出掛けるなどし、地域住民に積極的に挨拶をし交流を深めている(コロナ禍の為、会釈や手を振って挨拶をしている)			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の議題のテーマを各ユニット職員が決め認知症に対する知識を深め地域の方に発表している(現在は書面と電話での報告)。また利用者の作品を新聞広告に載せたり年1回は作品展に出品したりと地域の方々へ働きかけている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、家族、地域住民、地域包括支援センター、有識者に意見を聴き、また家族様アンケート、勉強会の報告を行うなどし、質の向上に努めている(現在は書面、電話での報告)			
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況の報告を月初めに行い、2ヶ月に1回運営推進会議の議事録、ホーム便りなどを送付し協力関係が継続出来るよう体制作りを図っている			
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全安心な生活が送れるよう利用者個々の精神面や行動を把握するとともに希望に応じ玄関のロック式施錠を解除し付き添いのもと外へ出られるようにしており昼間に開錠時間を設け閉塞感のないように努めている			
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月の職員勉強会で、事例をあげて話し合い、勉強会を行い、虐待に対する認識を深め、虐待防止の徹底を行っている			

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している利用者はいないが、成年後見制度について資料を配布するなどし、また勉強会を行い、全職員が情報を共有している					
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	話し合いを行い、利用者、家族の気持ちを重視し、契約時、疑問点など残らないように十分な説明のもと締結し、解約についても理解が得られるよう説明する時間を十分に設けている					
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱を玄関に設置年1回アンケート調査を行い運営に対するご意見を聴き年3回家族会を開催していたがコロナ禍の為家族会は中止しており電話でのご意見ご相談や書面でのご意見ご相談を受け付けている					
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員勉強会で広く意見を聴き、個別にも相談に応じ、意見提案を運営に活かせるよう取り組んでいる					
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の勤務状況、実績を把握、考慮し研修会への参加が出来るような職場環境を整えている					
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月1回運営推進会議の議題のテーマについて職員が考え勉強会を先に行い認知症の知識や対応について職員間で学ぶ機会を作りまた法人内外の研修に参加し(現在はZOOMの動画での参加)参加後も研修内容の報告を伝達している					
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	協会の委員を努めることで広く意見交流の場へ参加し他グループホームとお互いの運営推進会議に出席し意見交換を行っている(現在は書面会議、ZOOM動画での参加)					

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	自己評価
			実践状況		実践状況	実践状況
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困り事、不安な事が伝えやすい環境を作り、時間をかけお話を聴き、安心して頂けるよう努めている。また好きなこと、できることに着目して一緒にいき、関係作りに努めている			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス担当者会議への参加を呼びかけ、電話でのご相談やご意見、要望に沿えるよう努め、不安なことは時間をかけ、ゆっくりとお話を聴き、安心して頂けるよう配慮している			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が必要としていることを見極め、お話を聴き、本人に合ったサービスが提供できるように努めている			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「その人らしさ」を大切に、生きてこられた人生を尊重し、出来る事探しを行い、感謝の気持ちを伝え関係性を築いている			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の来訪時には状況の報告を行い毎月はじめには生活状況を書面に書き一緒に行事参加時の笑顔の写真を同封している。遠方の家族に対しては電話連絡を行っている			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍の為窓越し面会や外のベンチで距離を置いてお話できる環境作り、外部からの電話また家族や友人への電話なども取次も行い静かな環境のもとで電話できるよう配慮している。また、お手紙のやりとりや塗り絵等の作品を郵送で送っている			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、談笑したり様々な事が一緒に出来る雰囲気を作るよう席や椅子、ソファの配置等環境整備に気を配っている			

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院を余儀なくされた利用者にも、引き続きお見舞いに伺い、好みやケアについて詳しく情報提供を行っている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今まで生きてこられた生活歴、趣味、既往歴の情報収集を行い、職員全員が共有し本人の「出来ること」「その人らしさ」を大切にしたいプラン作成をし統一したケアを提供している			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式や独自のアセスメント表を活用し、本人や家族から生活歴等を聴き、全職員で情報を共有を行っている			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝・夕のバイタルチェックを行い、心身の状態の観察を行う。表情や顔色、行動観察を行い、絶え間ないケアが出来るよう申し送りを行って、統一したケアを提供している			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント、モニタリングを行い、担当者、計画作成担当者、本人、家族も交えカンファレンスを行い、本人、家族の意向に沿った計画の見直しを行っている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活状況、心身の変化など日々の変化も見逃さず記録を行い、それに沿って申し送りを行い、情報共有を図っている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の要望に応じ買い物外出や外食外泊等の自宅までのお迎えを行うなど利用者の状態に合った対応をしていたが、現在はコロナ禍の為職員が要望を聞き、買い物や受診の付き添いなどを行っている			

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している		運営推進会議などを通じて、市役所及び地域の方の協力を得、安心、安全な生活が出来るよう支援している				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		母体法人の医療機関から月1回の定期往診、それ以外にも体調の変化に応じての受診への付き添い、また必要に応じた他科受診も家族や職員が付き添っている				
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している		母体法人の医療機関から看護師が来て、健康管理や体調の変化の早期発見に努め、職員からの相談にも応じている				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。		入院後もお見舞いに行き、身体状況の確認、医師や看護師からの情報収集を行い、家族への情報提供も行っている				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる		入所時より、利用者、家族に十分に説明を行い、意向を尊重し、医療機関と連携を図っている。また看取りが必要となった場合の内容説明を行い同意を得ている				
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている		勉強会や全体会議で管理者に急変時対応の指導や助言を行ってもらいながら初期対応を身につけられるよう日頃からイメージトレーニングを行い、実践力の向上に努めている				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている		毎月利用者も参加し避難訓練を行い地震火事水害の際の行動を確認し敷地内の他事業所とも合同訓練を行うよう強化している。また運営推進会議で地域の方に防災訓練の報告も行い協力体制での連携を図っている。				

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者1人ひとりの気持ち、行動を大切に尊厳を尊重した言葉かけをするよう常に話し合っている					
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いや意向を伝えやすい雰囲気を作り、意思決定が出来るよう、話しかけを行っている					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1人ひとりに一緒に出来ることを探し、本人のペースに合った提供を行い、達成感を味わって頂けるよう支援している					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は、ご自分で服を選んでもらい、化粧する利用者は化粧できる環境を作る等、意欲の向上に努めている					
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や片付け、洗い物、お盆拭きなどお手伝いをして頂いている。また、利用者と一緒に作るものを考え、おやつ作りも一緒に行い、1人ひとりの力を活かして役割りを担ってもらっている					
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別記録に食事、水分量を記録し、全体を通して不足している場合は、主治医や管理栄養士と相談し体調に合わせて本人の好きな食べ物または栄養補助飲料の提供を行い、職員間での情報共有を図っている					
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	母体法人の口腔ケア研修で知識を深め、利用者に口腔ケアの必要性を説明し、毎食後、歯磨き誘導や介助を行い、1人ひとりの口腔衛生の管理を行っている					

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況		実践状況	
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者1人ひとりの排泄パターンを把握し、本人にあったパットや下着の選択を行い、排泄表を用いて声かけ、誘導を行っている					
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録表を毎日確認し、水分補給や体操での活動を行い、個々にあった下剤の調節などを行い、便秘予防に努めている					
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調に考慮し拒否が合った場合は時間を置いて声かけしそれでも拒否があった場合は翌日に変更するなど本人の意向にそっている。季節によって菖蒲湯、ゆず湯や好きな入浴剤やシャンプー等を選んでもらっている					
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の状態を見ながら、その時の状態に応じた過ごし方を職員で話し合い、就寝時間も本人のペースに合わせて良眠できる環境を作っている					
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による居宅管理指導のもと、正しい服薬が行われるようダブルチェックを行っている。症状に変化があった場合、速やかに医師、看護師、薬剤師に報告を行っている					
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の生活の中で、洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、おやつ作りなど役割を一緒に見つけ、できることをその人に合わせてして頂いている。常に労いの言葉をかけ、できる喜びを感じて頂けるように努めている					
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の要望に応じ買い物外出や季節の行事にお誘いし出掛け外気浴や誕生日月には本人の行きたい場所を聴き家族と一緒に遠出や外食、ドライブに毎年行っていたが、コロナ禍の為、近場の大神子海岸や日の峰広域公園などで季節の行事を行っている。また散歩に行き気分転換を図っている					

自己	外部	項目	自己評価	福壽	自己評価	実践状況
			実践状況		実践状況	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族、本人の了解を得、預かったお金は金庫にて保管し、買い物や外出した際にお支払いして頂いている			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の希望に応じて電話連絡の支援を行い、家族からの手紙などは一緒に読み、手紙の返事や本人がしている作品物などを送ることができるよう一緒に行っている			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には季節の花を利用者と生け花をし飾り、食堂など共同空間にも飾っている。また季節の飾り付けも一緒に行い、季節感を出した明るい雰囲気を作っている。温度調節にも配慮し適切な温度管理を行っている。テレビや音楽の音量にも配慮している			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同の場、食堂にはソファやソファベットの自由に行き来でき、そこで休息されたり気の合った利用者と談笑したり、ビデオを楽しむ事ができる雰囲気となっている			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の慣れ親しんだ家具や椅子、小物、写真などを用意して頂き、本人の時間を過ごせるように工夫している。本人が気持ちよく過ごせるよう清掃も毎日行っている			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	風呂の入り口にのれんをかけ、トイレの場所も分かりやすいよう飾りをつけている。共同フロアに日にち、曜日を大きく表示し利用者の記憶に合わせた工夫や場所の混乱がないよう安全安心した支援を行っている			